

平成29年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報総合 研究事業）
（分担）研究報告書

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発

研究分担者 加藤 稲子 三重大学大学院周産期発達予防学講座 教授

研究要旨

本研究では、死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例集を収載した教育コンテンツを開発し、原死因を適切に記載することの普及・啓発を目的とする。

本年度は、原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）について、その内容の充実を図った。特に小児の死亡事例について、多数の事例ベースの具体的記載例を作成した。記載例を活用することで、記載のしかたについて苦慮する例が減り、死亡診断書・死体検案書の適切な記載が増えることが期待される。

A．研究目的

死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例集を中心とした教育コンテンツの開発を目的とする。原死因を適切に記載することのみならず、記載に悩む事例についての対応の一助となるものとする。

B．研究方法

事例と模範記載例（標準的記載例）を中心とするコンテンツを作成する。特に、死亡診断書・死体検案書の作成時に、記載のしかたに悩む例での活用を主眼に事例を構成する。

過去の経験や学会等で伝聞した情報も含め、小児における比較的典型的な事例、および作成に苦慮した事例を収集する。死亡診断書・死体検案書等を作成する上で問題となる点や課題を抽出し、実際に即した形での原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）と解説を作成した。救急医療、高齢者医療、法医学など様々な領域の専門家から構成される各分担研究者、研究協力者の協力の下、作成した記載例については、研究班員全員でのブラッシュアップを行い、様式の統一を図った。

（倫理面への配慮）

例示に際しては、個人情報や個人が特定できるような内容を含まないよう、内容を編集し、十分配慮した。

C．研究結果

小児の死亡例は多くないが、その中でも時に遭遇する頻度の比較的少ない事例や、内因（疾病によるもの）のみならず外因（窒息や溺水など）の関与する事例を中心に、事例を設定し、それぞれについて模範記載例（標準的記載例）と解説を作成した。

D．考察

死亡診断書、死体検案書を作成する際に、日常の診療等で遭遇しにくい事例では、時に記載の際に悩む例も少なくない。また、疾病のみならず窒息や溺水などの外因の関与する事例の場合には、それぞれの病態の関与について、判断が難しく、書類作成時に記載の際に悩む例も少なくない。

死因統計は、わが国の保健衛生行政や社会的にも広く活用されており、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつである。一人一人の死亡診断書、死体検案書の記載内容（死因欄に記載された傷病から選択された原死因）が死因統計の分類を行う上での基礎となっており、どのような形で記載内容が統計作成に利用されているかを熟知しておく必要がある。

本研究で作成した教育コンテンツは、実際の事例に即した形であり、模範記載例（標準的記載例）は、講義や研修会等にも幅広く活用できる。

E．結論

日常の診療において遭遇する機会が少ない事例も、死亡診断書・死体検案書作成の際に記載に悩む場合もある。その際に参考になるような、記載についての内容例示を充実させた。本研究で作成した教育コンテンツを用い、原死因を意識して、死亡診断書・死体検案書を作成する機会が増えることで、死因統計の精度向上につながり、ひいては国民の健康増進・福祉の向上に寄与していくことが期待される。

F．健康危険情報

該当なし。

G．研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

3. 関連した実務活動

なし

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

該当なし。

